

一般社団法人

**S-BRAIN** 脳活用普及協会

— S-BRAIN Promotion Association —



「脳科学」 × 「医療」 × 「教育」

## 脳を正しく使い切ることで 人の可能性を広げていく

伝統的な価値観や、新しい考え方など多様化していく時代の流れの中で、自分の良さを十分に発揮仕切れていないたくさんの人たちがいる。ひとりひとりが脳の使い方を知り、使い切ることで個人や企業は新しい可能性を広げ、全ての人々がストレスを乗り越え、死ぬまで健康に生きて生きていける。私たちはそう考えます。

# S-BARIN 監修

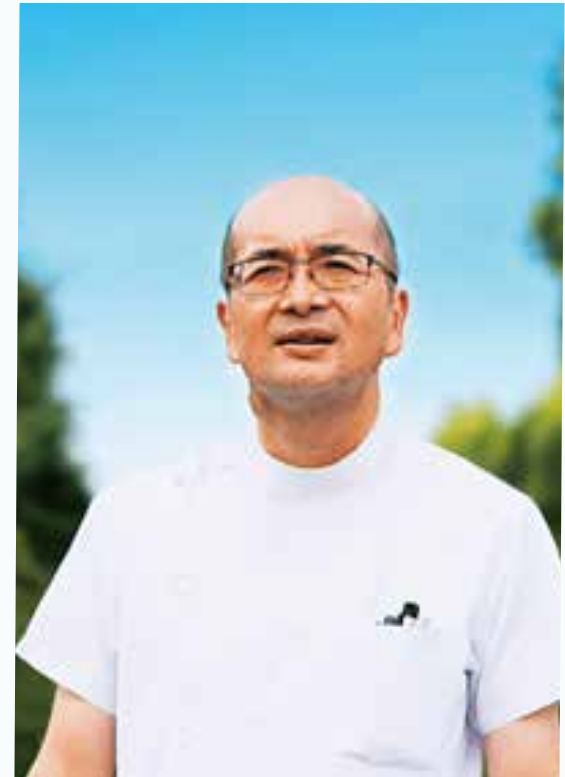
## 篠浦 伸禎

都立駒込病院 脳神経外科部長

1958 年生まれ。東京大学医学部卒業後、富士脳障害研究所、東京大学医学部附属病院、茨城県立中央病院、都立荏原病院、国立国際医療センターにて脳神経外科医師として勤務。1992 年、東京大学医学部の医学博士を取得。同年、シンシナティ大学分子生物学部に留学。帰国後、国立国際医療センターなどで脳神経外

科医として勤務。2000 年より 都立駒込病院脳神経外科医長として活躍し、2009 年より同病院脳神経外科部長。

「2015 年 12 月 12 日週刊現代「人として信頼できるがんの名医 100 人」に脳領域で唯一選ばれるなど日本を代表する脳外科医師。 脳の覚醒手術ではトップクラスの実績を誇る。



## テストができたキッカケ

脳外科医の篠浦伸禎先生は、10 年以上にわたり患者さんの意識のある状態で脳手術を行う「覚醒下手術」という最先端レベルの手術を行ってきました。手術を行う中で、患者さんの反応から、脳の機能や仕組み、その使い方を観察し、分析してできたのが「脳活度診断（以下、S-BRAIN）」です。

S-BRAIN では、「右脳型」「左脳型」に加え、情報処理の仕方が違う「次元」、行動の仕方が違う「受動」「能動」、人間社会に適応するための必要な「動物脳」「人間脳（コントロール）」、そしてストレスを乗り越えるための「活用度」で、現在の脳の状態、健康状態を数値化できるのが特徴です。

## 篠浦塾

「篠浦塾」では、良い治療法（統合医療-食、体、脳（心）からの統合医療からの病気の予防、および西洋医療と組み合わせた治療法）に関するセミナーを開催



## 書籍

戦争好きな左脳アメリカ人  
平和好きな右脳日本人



2017/01/25  
かざひの文庫  
著書：篠浦伸禎

現場から始まる医療革命  
統合医療の真実



2018/01/11  
きれい・ねっと  
著書：篠浦伸禎

トヨタの脳の使い方  
世界で結果をだせる日本精神の秘密



2018/08/20  
きれい・ねっと  
著書：篠浦伸禎

# 事業紹介

## Vision 目標

脳診断を使って、脳から見た【体、食、脳 [心]】の改善方法で健康になる新しい仕組み「篠浦式・統合医療」により、個人や企業の強みを伸ばす活動を行う。

## Mission 使命

- ・ S-BRAIN を通して、食、身体、脳（心）を見直し、脳から見た健康相談と改善で病気を予防していく。篠浦式・統合医療の普及。
- ・ S-BRAIN を通して、子供から大人まで、脳から見た様々な個人や企業の成長と幸せのために活用する。S-BRAIN の普及。
- ・ 環境に応じて脳の使い方を変える方法と、それによりストレスが減ることを促す。チーム（右脳）リーダー（左脳）の育成。

## Strategic Direction 活動方針

- ・ 医療相談として、脳から見た健康診断と改善で病気の予防
- ・ 経営相談として、脳から見た企業経営の相談と改善
- ・ 教育プログラムとして、企業におけるリーダーシップ（左脳教育）の構築や、チームビルディング（右脳教育）の力を養う。

## 理念

脳を使い切ることで「個人や企業が健康になり、成長し、医者がいらない社会」を目指します。



# 4つの脳タイプで、個人の能力を「数値」で理解するS-BRAIN診断テスト

※数値は3ヵ月～半年ごとに変わっていきます。

S-BRAINでは「右脳型」「左脳型」に加え、情報処理の仕方が違う「次元」、行動の仕方が違う「受動」「能動」、人間社会に適応するための「動物脳」「人間脳（コントロール）」、そしてストレスを乗り越えるための「活用度」で、現在の脳の状態を数値化できることが特徴です。

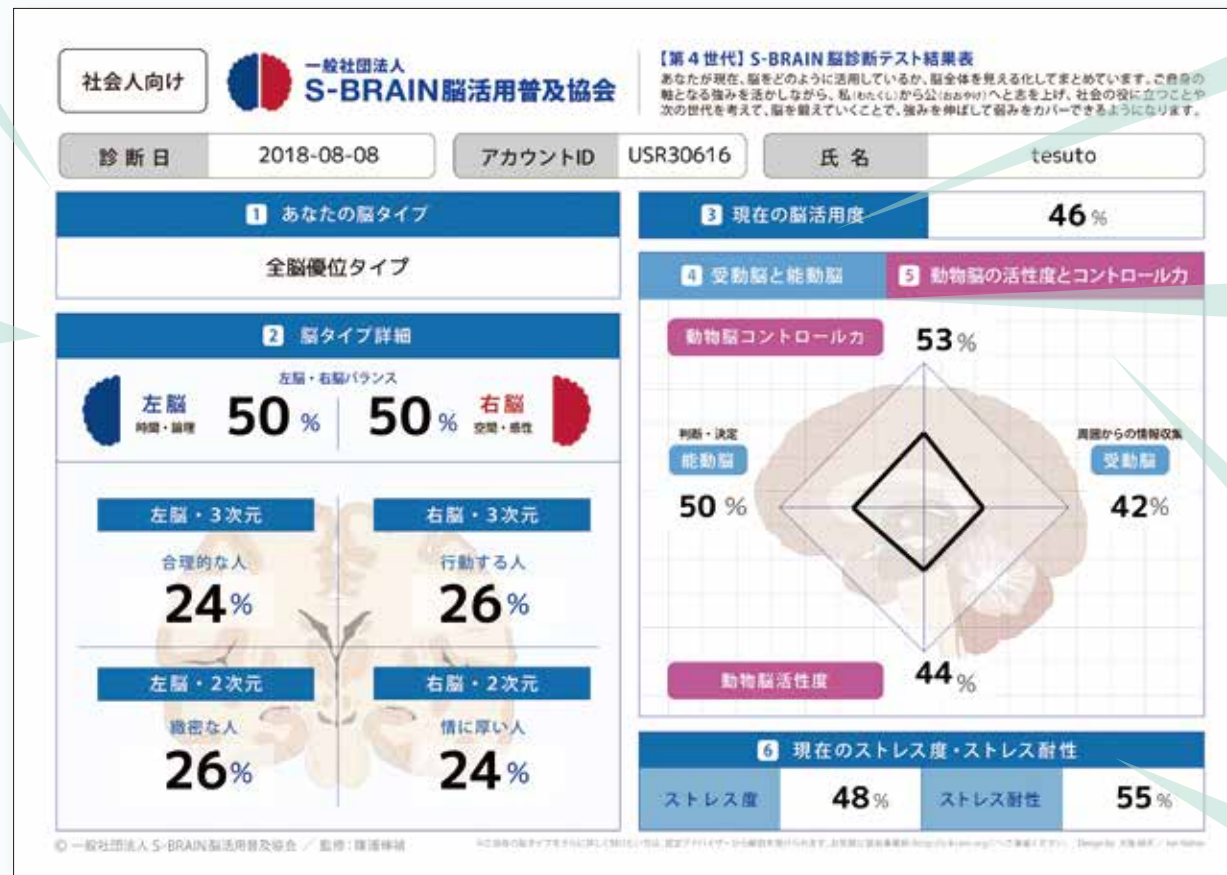
## ① 脳タイプ

今の時点でどのくらい脳を使っているか活用度を数値化。この数値が高いほど脳を使っており人生を豊かに過ごすことができる

## ② 脳タイプ詳細

今の時点で右脳と左脳の活用度の詳細を数値化し、さらに個人の脳が2次元、3次元にそれぞれどのように活用されているのかを4つのスタイルに分けて数値化。

脳テストで知る数値は、現時点での診断です。日々の生活や学習において、数字を意識すると変化していきます。



## ③ 脳活用度

今の時点でどのくらい脳を使っているか活用度を数値化。この数値が高いほど長期的にストレスに強く、人生を豊かに過ごすことができる

## ④ 受動脳と能動脳

正確な情報を収集する「受動性」、受信した情報をアレンジして発信する「能動性」のバランスを数値化

## ⑤ 動物脳活性度とコントロール力

情動的な動物的な脳の使い方である動物脳と、理性や見識で欲望を抑える人間的な脳の使い方をするコントロール力のバランスを数値化

## ⑥ 現在のストレス度・ストレス耐性

現時点でのストレス度とストレス耐性を数値化し、社会との携わり方を認識する。